

1. 科目名 (単位数)	メディア社会論 (2 単位)	3. 科目番号	EDIT2306
2. 授業担当教員	里吉竜一		
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	情報科教諭免許選択科目 (ただし、情報科教員として必須の内容であるの履修することが望ましい。)		
7. 講義概要	近年、若者から高齢者までの多くの人が、スマートフォンや携帯電話などのモバイル機器を使って、電話やインターネットによる情報収集・検索などを行っている。それは、コンピュータやネットワークの技術開発やインフラ整備により、我々の生活スタイルが大きく変わってきていることを示す一例である。本講義では、メディアと社会との関わりについて、具体的な社会現象や研究事例を通して考えていく。		
8. 学習目標	メディアが社会にもたらした影響やメディア技術について理解し、日常生活や今日の情報社会に応用できる知識を身につけることを目標とする。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	担当教員作成の e-Text を課題として割り当て、発表レジメをまとめて授業で発表及びディスカッションを行うという、アクティブ・ラーニングを通じて実社会で通用する周りの人と協力し合う能力や自ら進んで学ぶ能力を身につける。期末レポートは、講義で取り上げたテーマについて簡潔に要点を整理し、それらに対する自分の意見を発表して評価します。 ・ レポート課題 (各講義毎) ・ 期末レポート (1 回)		
10. 教科書・参考書・教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書：本講義は実践性とフロンティア性を重視し、担当教員作成の e-Text を使用します。 ・ 副教材：里吉竜一『メタバースと教育-意思の再生と文明の倫理原理-』日本情報教育学会、2025。 ：Ryuichi Satoyoshi『Human beings and Generative AI』Kindle Edition Amazon Services International LLC、2024。 ：辻泉・南田勝也・土橋臣吾『メディア社会論』有斐閣、2022。 ・ 参考書：講義の中で適宜紹介します 		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>メディアが社会にもたらした影響やメディア技術について理解し、日常生活や今日の情報社会に応用できる知識を身につけることができる。</p> <p>○評定の方法</p> <p>出席状況や授業への取り組み、課題提出、期末レポートにより総合的に評価する。 授業参加 30%、課題 40%、期末レポート 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正解を事前に設定できない問題を科学的な根拠に基づいて解決し、生涯にわたって自ら学び続けられる素養を身につけることができます。 ・ Society5.0 と GIGA スクール構想に対応した授業を設計するので各自パーソナルデバイス (スマホかタブレット) を準備してください。 ・ 質問はいつでも気軽にしてください。 ・ 欠席、遅刻、早退をする場合は連絡してください。 ・ 本学規定により 3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認められないので注意してください。 		
13. オフィスアワー	・ 面談や補講の希望者は事前にメール等で連絡してください。p-ryosatoyo@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	イントロダクション 「メディア社会論」に関するアンケート、アクティブ・ラーニングについて確認して講義の導入とします。	事前学習	「メディア社会論」について調べておく
		事後学習	発表レジメの書き方や発表の方法等について理解した上で、資料収集、レジメ作成や発表準備を始める
第 2 回	メディア社会について 「思考とは、意味を問う勇氣である」 -ハンナ・アーレント「精神の生活」	事前学習	ハンナ・アーレント「精神の生活」を読んで要旨をドキュメントファイルにまとめて提出しておく
		事後学習	発表とディスカッションをもとに要点をまとめる
第 3 回	正義について 「各人に、彼のものを」 -プラトン「国家」	事前学習	プラトン「国家」を読んで要旨をドキュメントファイルにまとめて提出しておく
		事後学習	発表とディスカッションをもとに要点をまとめる
第 4 回	構造的不正義について 「構造的暴力」 -ヨハン・ガルトゥング「平和学入門」	事前学習	ヨハン・ガルトゥング「平和学入門」を読んで要旨をドキュメントファイルにまとめて提出しておく
		事後学習	発表とディスカッションをもとに要点をまとめる
第 5 回	語れなさ/封じられた声について 「参加の正義」 -ナンシー・フレイザー「正義の変容：再分配か承認か」	事前学習	ナンシー・フレイザー「正義の変容：再分配か承認か」を読んで要旨をドキュメントファイルにまとめて提出しておく
		事後学習	発表とディスカッションをもとに要点をまとめる

			める
第6回	聞かれる権利について 中間試験【考察】 -パウロ・フレイレ、ハンナ・アーレント、ルチアーノ・フロリディを通して	事前学習	これまで学習した内容を復習しておく
		事後学習	ディスカッションをもとに要点をまとめる
第7回	発表・ディスカッション 中間試験【自己評価と相互評価】 -自己評価能力得点の算出と開示	事前学習	前回の講義の内容を復習しておく
		事後学習	発表とディスカッションをもとに要点をまとめる
第8回	アルゴリズムによる沈黙について 「沈黙のメカニズム」 -フランク・パスクアーレ「ブラックボックス社会」	事前学習	フランク・パスクアーレ「ブラックボックス社会」を読んで要旨をドキュメントファイルにまとめて提出しておく
		事後学習	発表とディスカッションをもとに要点をまとめる
第9回	教育の変革と市民的徳性について 「声をあげる勇氣」 -ハンナ・アーレント「人間の条件」	事前学習	ハンナ・アーレント「人間の条件」を読んで要旨をドキュメントファイルにまとめて提出しておく
		事後学習	発表とディスカッションをもとに要点をまとめる
第10回	その声が抑圧されずに成立する文脈的条件について 「声をあげることが可能であり続ける条件」 ヘレン・ニッセンbaum「プライバシーの文脈的整合性」	事前学習	ヘレン・ニッセンbaum「プライバシーの文脈的整合性」を読んで要旨をドキュメントファイルにまとめて提出しておく
		事後学習	発表とディスカッションをもとに要点をまとめる
第11回	期末試験【探究活動】 -これまで学習した理論と概念を通して考察を深める	事前学習	これまで学習した内容を復習しておく
		事後学習	ディスカッションをもとに要点をまとめる
第12回	期末試験【作品制作】 これまでに学習したことを活用して期末レポートを作成するために、「テーマ」「作成条件」「評価規準」を確認して評価方法、評価システム、教育的価値等を講義します。	事前学習	パワーポイントを復習しておく
		事後学習	諸条件を確認して最終課題を提出する
第13回	期末レポート発表① 所定の場所に期末レポートを提出して自己評価及び相互評価を実施します。	事前学習	これまでの授業内容を復習しておく
		事後学習	「評価規準」を確認して自己評価及び相互評価の教育的価値を考える
第14回	期末レポート発表② 所定の場所に期末レポートを提出して自己評価及び相互評価を実施します。	事前学習	前回の授業内容の復習をしておく
		事後学習	「評価規準」を確認して自己評価及び相互評価の教育的価値を考える
第15回	総合演習：自己評価と相互評価 学生自身が他者の期末レポートを評価するのと同じように客観的に自己の期末レポートも評価する教育的価値を習得します。自己の内面に向かう自己教育力の醸成を目的とします。	事前学習	期末レポートを客観的に評価する意義を考えておく
		事後学習	どうしたら客観的な自己評価ができるようになるかについての考察をさらに深める